

平成21年 11月10日

さぬき映画祭2009応援企画&ビジネススクール一般公開イベント in 香川大学
ビジネススクールで映画と地域を語る！
～ハリウッドから、すずきじゅんいち監督を招いて～

1. ラウンドテーブル：映画についてみんなで語ろう！

「地域が映画に出会うとき：映画が地域を変える&地域が映画を変える」

話題提供：滝内志保（有限会社七海屋代表取締役）

庵治石とステンドグラスをもとにしたデザイン商品の製造販売

原 真志（香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授）

コーディネーター：大西正泰（香川大学大学院地域マネジメント研究科院生）

日本各地でフィルムコミッションがつくられ、映画が持っている魅力と可能性が注目されるようになっており、香川県でも庵治などでロケをした「世界の中心で愛を叫ぶ」のヒットで映画のパワーをあなどれないと実感した人も少なくないでしょう。このラウンドテーブルでは、映画自身が持っている人生をも変える魅力とともに、映画が地域活性化に対して持っている地域をも変えるかも知れない潜在力や、逆に魅力ある映画づくりに地域が果たす役割などについて、さまざまな角度から語り合います。

2. トークセッション：すずき監督に何を聞きよるん！

「ハリウッドへの挑戦：映画は何を輝かせるのか」

講演：すずきじゅんいち（映画監督：ロサンゼルス在住）

スペシャルゲスト：榎原るみ（女優：ロサンゼルス在住）

コーディネーター：原 真志（香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授）

知られざる巨匠、香川県出身のカメラマン宮武東洋氏が、厳しい時代に明るく生きた日本人・日系アメリカ人の強制収容所での生活を、密かに持ち込んだレンズで命をかけて温かく豊かにとらえていった様子を描いた感動のドキュメンタリー映画「東洋宮武が覗いた時代」（音楽：喜多郎）が、さぬき映画祭2009で上映されます。その上映に先立ち、同作品を監督したロサンゼルス在住のすずきじゅんいち氏を招いて、ハリウッドへのキャリアパスや、埋もれつつある貴重な財産に光をあてるプロセスとしての映画製作といったトピックについてお話しいただきます。また同監督の奥さんであり、二人三脚で奮闘されている女優の榎原るみさんにも特別参加していただく予定です。

日時 11月14日（土） 19時～21時

場所 香川大学大学院地域マネジメント研究科特別講義室

高松市幸町2-1 南側のキャンパスの正門を入れてすぐ左の建物

アクセス JR 昭和町駅から徒歩10分（一般用駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください）

会費 無料（ただし、収容定員の制約上、当日先着70名様まで）

主催 香川大学大学院地域マネジメント研究科



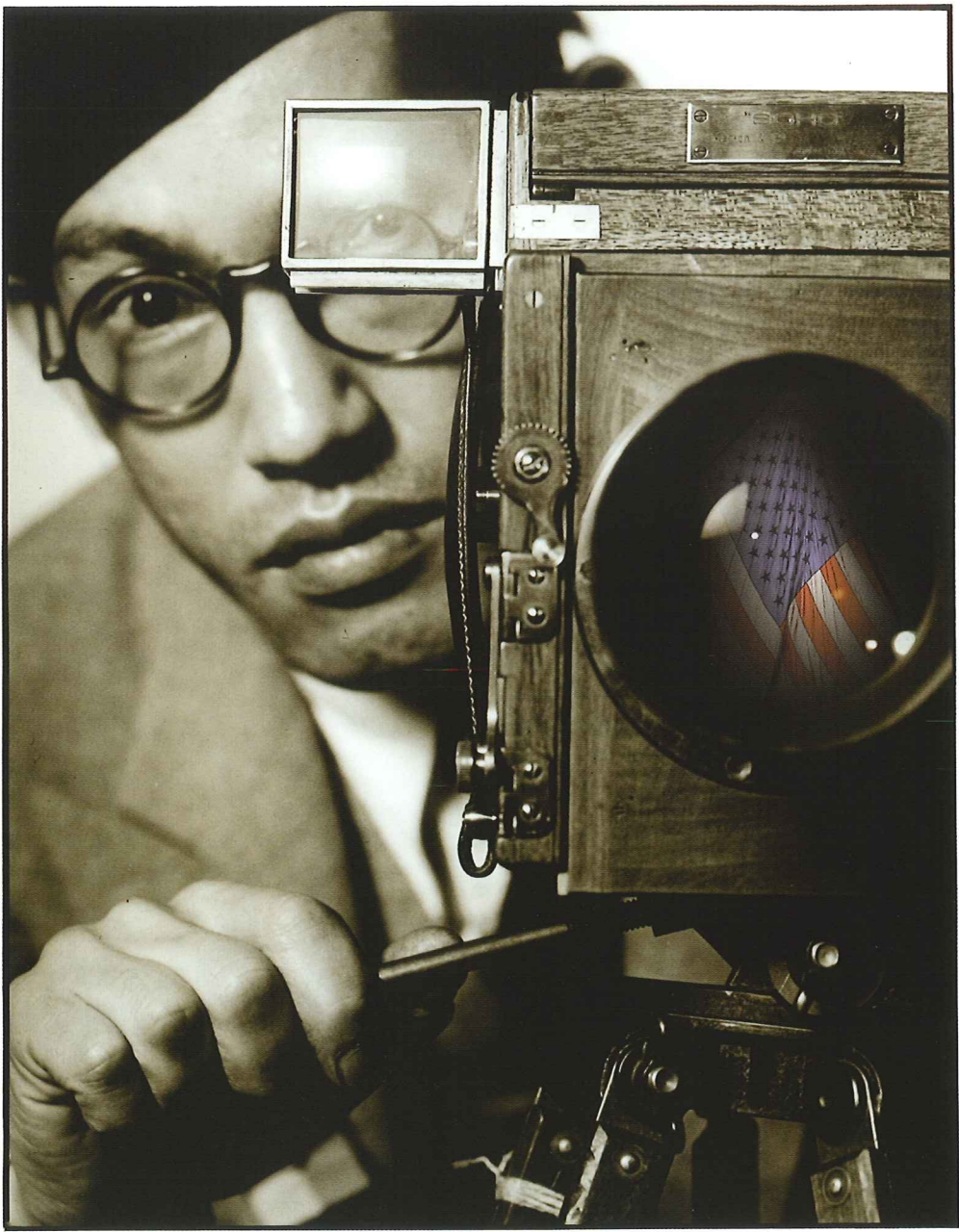
➤ 問い合わせ先

香川大学 地域マネジメント研究科 渡辺めぐみ

TEL：087-832-1906

E-mail：watanabe@gsm.kagawa-u.ac.jp

撮った。生きた。戦った。



感動のドキュメンタリー映画。

20世紀写真界の巨匠アンセル・亚当ス、エドワード・ウェストン、そして東洋の写真は何を語るのか…

東洋宮武が覗いた時代

Toyo's Camera

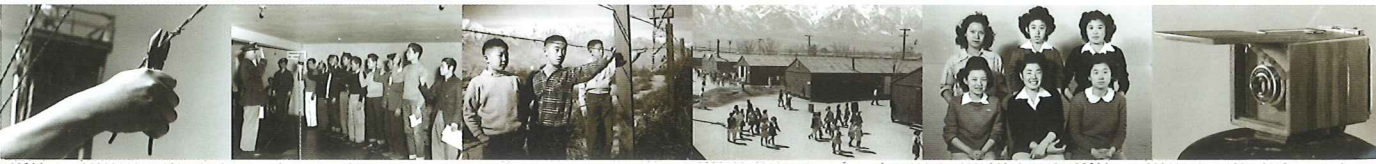
企画・脚本・監督:すずきじゅんいち
音楽:喜多郎

エンドミュージック:マイクシノダ(リンキンパーク)

出演:アーチャー ミヤタケ/ダニエル イノウエ/ジョージ タケイ/渡部昇一/細江英公/ジミー サコダ/スティーブン オカザキ 他 声の出演[日本語版]:羽佐間道夫 他
製作総指揮:鈴木隆一/上利浩二 共同総指揮:林田洋/大島征夫 チーフプロデューサー:寺坂重人 プロデューサー:岡野進一郎 撮影:小淵将史/本間秀幸 編集:木原徹 録音:宗円俊之
Toyo's Camera フィルムパートナーズ作品[UTB、フィルムヴォイス、東北新社、米田日本ハム] 2008年/日米合作/カラー&BW/ステレオ/HD/98分 配給:宣伝:フィルムヴォイス ©Toyo's Camera Film Partners
後援:産経新聞社 協力:日本写真家協会/日本写真協会/日本写真文化協会/日本広告写真家協会/全日本写真材料商組合連合会/写真弘社/ムーブマン/川崎市市民ミュージアム

助成:芸術文化振興基金 /ジャパンファウンデーション  <http://www.toyoscamera.com/>

かつてアメリカに日系人強制収容所があった—



アメリカ政府は「日系人保護のため…」と主張した。 しかし、銃口は塀の内に向けられた!

強制収容所を記録した写真家、宮武東洋。
日系人の歴史と真実に迫る
感動のドキュメンタリー。

二度と起こってはならないこの事実をカメラで
記録するのが、写真家としてのつとめだ――。

真珠湾攻撃から始まる太平洋戦争でアメリカ政府の敵視政策は強行なものとなり、1942年鉄条網と監視塔に囲まれた収容所にほとんどの日本人、日系人が収容されました。10ヶ所の収容所に入れられた約12万人の半分以上がアメリカの市民権を持った人たちでした。この中に写真家・宮武東洋とその家族がいました。東洋は自ら隠し持ったレンズをもとに手製のカメラを作り、持ち込むことが禁じられたカメラはマンザナ収容所の実態を鮮明に記録していきました…。



20世紀写真界の巨匠アンセル・アダムス、 エドワード・ウェストン、そして東洋の写真は何を語るのか…

本作に写る約500枚の写真にアダムスとウェストンの作品も登場。風景写真の第一人者として有名なアダムスが写したものは収容所の人物主体の写真でした。東洋が師と仰ぐウェストンは8×10インチの大判カメラを使用する先鋭的な写真家。収容所でふたりの感動的な出逢いは、我々に深い感銘を与えます。音楽は世界的なミュージシャン・喜多郎。東洋の写真美しくドラマチックに彩ります。エンドミュージックにはロックバンド・リンキンパークのマイクシノダが登場。収容された祖父を歌う曲「ケンジ」でバワフルなメッセージを投げかけます。監督はアメリカ在中のすずぎじゅんいち。初のドキュメンタリー作品として注目が集まっています。



宮武東洋 (1895—1979)

香川県出身。13歳でアメリカ移住。1923年、ワシントンDCに写真館を開業後、報道写真家として活躍。1932年のロサンゼルスオリンピックの報道写真は有名。エドワード・ウェストンの協力で日本文化の紹介と普及に尽力。数多くの知名人、文化人、芸能人を撮影。その中には皇太子時代の今上天皇も。戦時中のマンザナ収容所の写真は、戦争の貴重な資料として大きな反響を呼び、日米両国で展示会が開かれた。

Toyo's Camera



東洋宮武が覗いた時代

企画・脚本・監督：すずぎじゅんいち 音楽：喜多郎 エンドミュージック：マイクシノダ (リンキンパーク)
出演：アーチャー・ミヤタケ/ダニエル・イノウエ/ジョージ・タケイ/渡部昇一/細江英公/ジミー・サコダ/スティーブ・オカザキ 他 声の出演 [日本語吹替版]：羽佐間道夫 他
製作総指揮：鈴木隆一/上利浩二 共同総指揮：林田洋/大島征夫 Toyo's Camera フィルムパートナーズ作品 [UTB、フィルムヴォイス、東北新社、米国日本ハム]
2008年/日米合作/カラー&BW/ステレオ/HD/98分 ©Toyo's Camera Film Partners

<http://www.toyoscamera.com/>